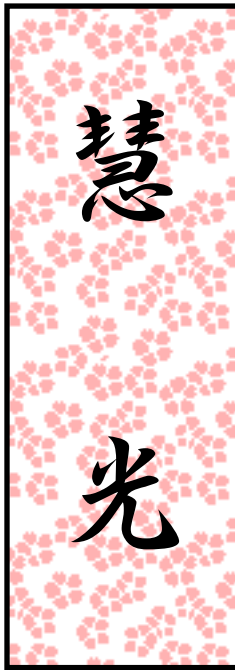




▲ ご家族、おばあさんお揃いで藤木絃羽ちゃん初参式 (8月12日)



金光寺寺報
第207号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
☎ 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば

まことの信心の人をば諸仏とひとしともうすなり

今月のことばは、親鸞聖人のお手紙 (御消息) にあるご文です。(注釈版聖典778頁) 「まことの信心の人が諸仏である」とはおっしゃっていません。「まことの信心」といっても、煩惱を具足している凡夫であることには変わりはありません。煩惱具足の凡夫は、けっして真実清浄な仏さまと同じではありません。煩惱のかけらもまじらない、真実で清らかな存在が仏さまです。

煩惱具足・煩惱熾盛の凡夫は、仏さまとは真逆の存在と言わねばなりません。けれどもその凡夫を「まことの信心の人」と讃え、「まことの信心の人」は「諸仏とひとし」(仏がたと等しい) と讃えられるのです。

一見、矛盾するようなことです。どのように考えればよいでしょうか。

「まことの信心の人」は、阿弥陀仏の大いなるお心に出遇うことができた方です。亡く

なると、必ず阿弥陀さまのお浄土に往生して、必ず仏と成らせていただけることが間違いな

いと知ることができている方です。この方を、臨終を待たずに、仏に等しいという最大級の讃辞をもって讃えるのです。今月のお手紙とは別のお手紙には、「我善親友」という言葉もあります。お釈迦さまが、「我が善き親友」(私のまことの善き友)とおっしゃるのです。

この世に生きる限り煩惱真っ盛りに違いはありませんが、この世の縁が尽きる時、浄土に往生し、すぐさま仏に成らせていただけるとわかるのですから、仏と等しいと讃えられるということは、矛盾はしないことだとわかりますね。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載 『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日には緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

Table with 2 columns: Date and Day. Includes dates for September and October.

8月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

Table with 4 columns: Year, Date, Name, Age. Lists deceased members.

ホームページ開いています。 URL http://konkouji.jp/ 9月5日現在アクセス数 83,385人

あ私ンいたンいんし軽と士カえしゴさ私えなた気でになクのにだいしし
りがゴしてゴたなまはのとメててのんがるかだ温すも猛リで上そたた八
が何一くでもこりし撮こ津うくし写が不のっすががれ暑です陸うののね月
と片片、新しいとんた影と軽片だま真お在でたよ、すがしがしではは。は
うもぐ普鮮たでゴ。でで、手さうを出のすのね。台暑続た、なす九一し台
ご食ら段なだしが(きし紅にっぱ撮で時がで。ら風いき。六。州つか風
ざべいはのきた探二ずた玉伺たいりに)こ(災▼ん(松井卓郎)

仏教名言ノート

その「入道」親鸞なれ
和歌の浦曲の 片男浪の
よせかけよせかけ 帰るよこへ
われ世に繁く 通いきたり
みほとけの慈悲 つたえなまし
「報恩講の歌」(黒瀬智円作詞、野村成仁作曲)が聞こえてきました。どこかで報恩講が勤められているように感じます。親鸞聖人は私達に仏さまの教えを伝

えるために、たいへんご苦労されましたが、弘長二年(一二六二)十一月二十八日(一二六三年一月十六日)、念仏の声とともにご往生されました。報恩講は聖人のご遺徳をしのび、仏恩に感謝して當る法要です。聖人は別れを悲しんでいる人たちに、こう諭されたといわれます。「我が歳きはまりて、安養浄土に還すといふとも、和歌の浦曲のかたを浪の、寄せかけ寄せかけ帰らん同じ(私はこの世の命がきわまってお浄土へ帰るが、ちょうど和歌の浦の浜辺に波がつきからつきへと打ち寄せるように、仏さまのお慈悲を伝えるために、私はお浄土から帰ってくる)。

一人居て喜ばし二人と思ふべし、二人居て喜ばし三人と思ふべし、その一人は親鸞なり(一人で仏さまのお慈悲を喜ぶときは二人で喜んで欲しい、二人で喜ぶときは三人で喜んで欲しい)と、「御臨末の御書」より。一人居ても喜ばし二人にして喜ぶよりは三人なるこそ「報恩講の歌」はまだ続いています。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと